

# 揺るがないバスケットへの情熱でさらなる成長誓う

第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会ウインターカップ2020出場  
県バスケット協会令和2年度U18優秀選手

## 川村 愛斗 さん

かわむら・まなと 18歳 Ⅱ 駅前二区 Ⅱ



平成14年生まれ。盛岡南高3年。両親と姉妹3人、祖父母、父の姉家族の3世帯で暮らす。大更小、西根中卒。中学では駅伝にも取り組み、盛岡市内一周継走準優勝に貢献。好きな選手は、同じ左利きのアルゼンチン出身選手マヌ・ジノビリ。183<sup>cm</sup>、68<sup>kg</sup>。

10月25日に行われたウインターカップ県予選決勝、79対74で盛岡南が一関工業を破り、優勝を決めた。第3クオーターに逆転となる連続の10得点を挙げ、勝利に大きく貢献したのが川村愛斗さんだった。

4大会ぶり13度目の出場となったウインターカップ。盛岡南は12月24日、静岡県代表の飛龍に63対84で敗れ、初戦で姿を消した。第1クオーターでリードし、前半は互角の戦いに持ち込んだものの、後半は相手のペースに持ち込まれ、点差を広げられた。「疲れが出る後半、シユートを決めきれなかった」と悔しさをにじませ、高校バスケットに別れを告げた。バスケットを始めたのは小学1年のとき。父の勧めで西根ミニバススポ少の練習を見学し、即日入団を決めた。「スポ少、中学と素晴らしい指導者と出会って、高いレベルのバスケットに触れることができた。また仲間にも恵まれ、常に向上心を持って」と感謝する。



3連覇中の難敵一関工業を退けたウインターカップ県予選決勝。果敢にゴールへ向かう川村選手

さらに上を目指して、進んだ盛岡南では、素早いボール運びからの得点やリバウンドなど、スモールフォワードとしての役割を果たすべく、的確な状況判断に磨きをかけてきた。目標のウインターカップ初戦突破はならなかったが、最後まで全力でプレーし、「チームモットー」成長を続けよう」を全国の舞台でも貫き通した。

バスケットをするため大学へ進む。目標は「全日本大学選手権(インカレ)出場」と全国大会への再挑戦を誓う。「自分の強みはバスケットが好きなこと」。始めたところから変わらない情熱を燃やし、新たなステージへ旅立つ。

### 【広告】

コミュニティバス「にしね眼科」バス停すぐ  
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります

漢方のあさひ薬局 西根中学校前店

公認スポーツファーマシスト  
国際中医専門相談員  
認定実務実習指導薬剤師

薬剤師 齋藤 貴将

八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

■編集後記

▽松尾中出身の小林陵侑選手がW杯日本男子単独最多の18勝目を挙げました。おめでとうございます。今号の特集記事を作るため、本や過去の新聞を読んでいると、荒屋や松尾のスキーの歴史にも触れることができました。昔を知ってからの今回の記録更新は、いつもより感慨深く感じられました。(多)

▽七滝水瀑ツアーを取材。道中の思わぬ伏兵は到着寸前にある雪の階段でした。階段が壊れるためストックは使用禁止、幅狭の一本道は踏み固まり凍結。転ぶと前の人を巻き込んで下まで滑り落ちそうでした。とはいえ、山中に階段があること自体に感謝しつつ、慎重に降りました。(吾)

※広報はちまんたい3月4日号(No.309)の印刷経費は1部71.5円、発行部数は10,080部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、(株)総合広告社(☎019-626-3370)まで。

